日本結核病学会北陸支部学会

── 第82回総会演説抄録 ──

平成25年6月1・2日　於　新潟ユニゾンプラザ（新潟市）

（第71回日本呼吸器学会
第56回日本呼吸器内視鏡学会　　と合同開催
第41回日本サルコイドーシス学会）

集会長　　土　田　正　則（新潟大学大学院医歯学総合研究科呼吸循環外科学分野）

── 一　般　演　題 ──

1. RFP併用投与群と非併用投与群とにおけるST合剤の喀痰MRSA陰性化率の比較検討（MRSA陽性慢性呼吸器疾患に対するST合剤の投与経験） ˚大場泰良（NHO富山病呼吸器外）

海外ではMRSA感染症治療にST合剤とRFPの併用投与が認められている場合がある。今回喀痰MRSA陽性の慢性呼吸器疾患に対してST合剤を投与し，RFP投与群と非投与群に分けてMRSA陰性化能を比較検討した。〔対象患者〕男女比25：22，年齢52～102（平均84.1歳），RFP投与群20例，非投与群27例。対象疾患，TB：25例，MAC：2例，NTB：4例，慢性呼吸不全：14。ST合剤2.0 g/日投与で0.5 g/日で適宜増減。1回/月痰培養を施行し，3回連続陰性を確認後投与終了とした。〔結果〕RFP投与群と非投与群の比較で，排菌停止率：90%，100%。再排菌率：40%，62%。退院時喀痰陰性率：75%，75%。ST合剤感受性：100%，97%。RFP耐性率：88%，75%。死亡退院率：55%，74%。死因：肺炎（非MRSA），癌末期，悪性リンパ腫，腎不全，肝不全，CO_2 narcosis，絞扼性イレウス，上部消化管出血，敗血症（非MRSA），元疾患関連死にて投与関連死を認めず。〔考察〕RFP投与群と非投与群でST合剤併用によるMRSA陰性化率に著明な差はなく，両群とも90～100%と良好だった。また当病棟のMRSAは，大部分がRFP耐性ST合剤感受性で，抗酸菌治療の影響をうかがわせた。排菌停止後の再排菌率は両群とも50%前後を占め，薬剤感受性検査結果の推移から，MAC排菌と同様のMulti-colonizationが示唆された。以上より喀痰陰性化のみを考慮したMRSA感染制御においてST合剤単独投与の可能性が示唆されたが，投与量と投与期間の設定がさらなる検討課題と考えられる。

2. 健常女性に発症した肺*Mycobacterium heckeshornense*感染症と考えられた1例 ˚平場友子（金沢医大臨床研修センター研修医）藤本由貴・加藤　諒・東野茉莉・四宮祥平・北楯祥子・高原　豊・山谷淳代・齋藤雅俊・小林　誠・小島好司・及川　卓・中川　研・高橋昌克・水野史朗・長内和弘・栂　博久（金沢医大呼吸器内）飯沼由嗣（同臨床感染症学）

症例は26歳女性。生来健康であったが約1年前より全身倦怠感を自覚していた。職場検診での胸部X線写真にて右上肺野に浸潤陰影を指摘され当院当科受診。喀痰検査で抗酸菌を認め16s rRNAシークエンスによる同定により*Mycobacterium heckeshornense*と同定された。INH，RFP，EB，CAMによる多剤併用化学療法を行った。薬剤感受性試験にてINH，EBに耐性を認めたためLVFX，RFP，CAMに変更し継続したところ全身倦怠感，画像上の陰影の改善を認めた。免疫能正常の患者に発症し，治療経過を追うことができたため貴重な症例であると考え報告する。

3. 血清CA19-9が高値を示した*Mycobacterium abscessus*症の1例 ˚北　俊之・新屋智之・市川由加里・黒川浩司（NHO金沢医療センター呼吸器）笠原寿郎（金沢大病呼吸器内）

症例は71歳女性。主訴は食欲不振。胸部CTは右下葉に気管支拡張と斑状陰影を認めた。喀痰検査は抗酸菌塗抹・培養陰性であったが，黄色ブドウ球菌，肺炎球菌が同定された。右下葉の気管支洗浄液の抗酸菌塗抹陰性，抗酸菌培養陽性（*Mycobacterium abscessus*）であった。血清CA19-9は280 U/m*l*と高値を示した。*Mycobacterium abscessus*，黄色ブドウ球菌，肺炎球菌による混合感染と診断した。CAM，AMK，IPM/CSを投与し，炎症反応，CA19-9の低下を認めた。血清CA19-9は気道感染の活動性の指標となりうる。

4. 過敏性肺炎に類似した陰影を呈し診断に苦慮した粟粒結核の1例 ˚山口　航・中屋順哉・小嶋　徹（福井県立病呼吸器内）海崎泰治（同臨床病理）高瀬恵一郎（福井県こども療育センター）

82歳女性。主訴は2週間持続する発熱。胸部CTでびまん性小粒状陰影と周囲の淡い陰影を認め過敏性肺炎や粟粒結核が疑われた。急速に呼吸状態悪化しステロイドと抗結核剤を開始し状態改善。喀痰・尿検査で抗酸菌塗抹・PCR陰性を確認しステロイドのみ継続。1カ月後発熱再燃し，入院時喀痰培養で結核菌が検出された。気管支鏡検査で粟粒結核と診断し抗結核剤再開，症状軽快し退院。過敏性肺炎類似の陰影を呈し診断に苦慮した粟粒結核の1例を経験したので報告する。